

— 百聞は一見に如かず —

教育長 宇野成佳

「百聞は一見に如かず」という慣用句があります。これは中国の歴史書「漢書（趙充国伝）」の「百聞不如一見」がもとになっています。広辞苑第七版によると、「何度も聞くより、一度実際に自分の目で見る方がまさる」です。

ところで、「みる」を調べてみますと、

- ① 回る・廻る…めぐる。まわる。
- ② 見る・視る・観る…「自分の目で実際に確かめる 転じて自分の判断で処理する意」目によって認識する。判断する。物事を調べ行く。とありました。

広く一般には「見」、「視」はまっすぐに目を向けてみる、また注意してみる場合。「観」は観察、見物などに多く使う。とありました。その他には、「診る」は病人を診察する。「看る」は看病する。

このように様々な「みる」があります。今は、情報化社会です。ネット上には一つの物事に対して多くの情報が流れています。物事を正確に知るには「どの み方」が必要なのか考え、情報を取捨選択しなければなりません。

昨今、A I（人工知能）と教育との関係が話題になっています。例えば、「コピペ（コピー・アンド・ペースト）」の利用です。それは、I C T機器で調べた内容や画像などをそのまま写す。物事に対する批評をそのまま記すなど。A Iで作られた整然とした内容が並べられます。しかし、本人の思いや考え、独創性が曖昧なままの学びとなってしまいます。これからは、情報を収集したら、それらを整理・分析し、適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決したりして、感じたことや体験したことをもとに自分の考えを形成し、アウトプットすることが、ネット情報やA Iを効果的に活用した学習となります。今はI C T機器も図鑑や辞書などと同じように、学習や生活を支えるものと考えたいです。

「百聞は一見に如かず」の続きとして、後世に日本などで作られた、「百見は一考に如かず」、「百考は一行に如かず」、「百行は一果（効）に如かず」といったものがあります。見る・考える・行動する・結果を出すとつながるそうです。

しかし、「聞く」ことも情報収集の一つです。とても大切なことです。どのように「きく」かです。「きく」を調べてみてはいかがですか。